

## 第7回（仮称）矢吹町複合施設整備検討委員会議事録

平成29年7月26日（水）午後5時00分～6時00分  
矢吹町文化センター小ホール

### 1 開会

### 2 委員長挨拶

委員長：今日は第7回になります。前回、活発にご意見を頂いて、委員会の最後に今日は密度が濃かったという意見がありました。読み返して見てそんな印象を受けました。前回のテーマにて、地域の語り部のような、屋台の事なら全て答えて頂いたり、子育て支援のプロと言うようなかたちであったり、歴史資料を伝えると言う事が子供達をふまえ、町に誇りを感じてもらえるような。施設造りの中に一部、展示施設を造っておしまいと言う事でもないと言うお話がありました。子育て支援について、子育ては楽しいと思えるような社会作りが大事なのではないかと言う指摘がありました。何でも相談できるような、子供にとっても知らない所に行って不安感があるでは無く、行ったときに馴染めるような空間作りが大事と言うお話もありました。希望を出し合えばいくらかでも夢は膨らむけれども、事業費、財政の中で無理なくそれぞれの思いを実現する為には、次の段階での議論の仕方が必要と言うご指摘もあつたと思います。前の会での図書館・公民館についての議論もふまえて、これからそう言う意味では一旦風呂敷を広げるあるいは風呂敷の性格を理解するところで議論を重ねてきたわけですが、そのたたみ方が良い姿になるように、現実的な条件も含めて密度の高い議論をしていく必要があると思います。今日はその段階に入る第一歩の委員会と言う事で、それぞれの立場からご意見頂けたらと思います。町民の方々の期待と不安という事に対して委員会として考え方が伝わるような取りまとめに向けて進んでいきたいと思っています。今日もよろしくお願い致します。

### 3 議事

#### (1) 議事録署名人の選出

委員長：議事録署名人の選出につきましては前回同様、お願いさせて頂けたらと思います。

委員長：今日は、〇〇委員と〇〇委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

委員：異議なし

(2) これまでの経過報告

- ・第5回検討委員会議事録について
- ・これまでの意見の整理と課題の抽出
- ・社会教育委員の会議及び文化振興審議会合同会議等について
- ・第6回検討委員会（現地視察）について
- ・その他現地視察について

委員：複合施設のテーマのようなものを私なりに考えてみました。子育て世代から高齢者までの複合施設と言う事で、「子供からお年寄りまで集う憩いの施設」と言う私なりのキャッチフレーズを考えてみました。現状、図書館だと子供から中学生しかいない。中央公民館だと子供がいなく年配の方が多いので、一つにする事によって小さい子供からお年寄りまで一緒に集える。そういう中でこれからの子育ての支援だとか、どういう形でお年寄りが子育てに参加していくのかというチャンスの場合でもある。これから益々、少子高齢化という時代ですので、一緒に集えると言うのがキャッチフレーズかと私なりに思っているのですが。複合施設と言いますが、町民の方で何を目指しているのかわからない方が多いので、キャッチフレーズみたいなのがあればわかり易いのかなと言う事です。提案です。

委員長：大変重要な指摘を頂いたと思います。今、発言の趣旨でどんなキャッチフレーズが付く施設にしていくか、この会の中でずっと考えています。最後に良い名前が付けられれば、あるいは場合によっては趣旨を伝えたところで名前を公募すると言うのもあるかなと思います。愛称のようなものですね。それが、単なる愛称では無く、思いや狙いが伝わるような物にしてけたら良いなと思います。これからの議論のテーマということでよろしいでしょうか。

委員：ホールが電動で出てくるとか手動で出てくるとかすごく良いと思いますが、逆にホールに椅子が置きっぱなしになっていたとしても、そこは図書館を利用する子供達が普段でも入れるような、そこで本を読めるような柔軟な考えもあるのかと思う。この間荒川区の図書館が新しく出来たと言う事で、そのホールは常に椅子が出っぱなしですが子供達が自由に出入りして本を読めると言うかたち。イベントがあるときは出来ないがそういう柔軟な考えも必要なのかなと思いました。

委員長：今度の複合施設の要素として図書館が入っていますが、1人でふらりと行って用を足すと言うか、誰でも皆1人でやって来られる場所。そんなときに、施設の中でいろんな活動があったり、出会いの機会になったり、複合施設ならではの

の人の出会い、いろんな世代の交流が生まれる様な。その為には、ただ足し算ではなくて単独では出来ないふれあいや活動が生まれるようにしていくこと、その為の施設の配置、関係性とかが非常に大事なテーマになっていくのかと思います。この点について議論をするとまだまだご意見があると思いますが今日はそういう事に関連して資料を用意しておりますので説明して頂いてご意見頂きたいと思います。

### (3) 新しい複合施設 各機能関係図について

(事務局説明)

委員長：施設全体の活動関係図で書かれている言葉はこれまでの会の中で施設ごとに検討してきました。そこで出された活動・内容・種類を書き出してきました。公民館・子育て・観光交流・図書館、一般的な施設種別の枠でそれらが何処に入ってくるか、又、類似の活動はどんな関係性があるか示したものと理解できますが、ご覧頂いてこういう活動が抜けている、それぞれの関係について離れたり別々に書かれているが、もっとこの関係は大事にしたい。そんな観点で、お気づきの点がございましたらご意見頂きたいと思います。

今後、施設を議論していく中でまたご意見頂けたらと思います。

管理のイメージと言う事で大きく分離型、一体型と言うご説明を頂きました。管理側の視点、利用者側の視点、利用者も年代による生活時間の違いといった部分も含めて、二つのうちどちらかと言う事では無く、利用・管理の両面からどう捉えるかと言う事の意見を出して頂きたいという事で頂きました。利用しやすい形、管理しやすい形、その他の観点から複合施設としての留意しなければいけない点、こうありたいと言うのがございましたら。

委員：先週、コミネスの視察で感じたのですが、音楽関係をやっているのですが、どうしても遮音性が求められるのかなと思います。図書館のルールについては子育て機能もあるので、静寂性が求められるだろう。子供の泣き声が聞こえないような工夫とか、サークル団体、音楽・太鼓だとかありますので遮音性が要求されてくるのかなと思います。

委員長：音の区分はとても大事な事です。その他無いでしょうか。

委員：利用する立場から考えましたが、A案・B案で利用する立場から言ったら一体型の方がいいのかなと言う感じがします。ふらっと行けるのかな、気楽に使えるのかなと思いますが、どんな問題が出てくるかわかりませんが、A案の方でも分離するのも大事だと思いますが、施設を集約するところも必要なのかと思

います。

委員：管理の仕方でわからない所があるのですが、図書館だったら司書だとかの専門家がいる必要がある所には、この施設にはこういう専門家が必要というのをリストアップして頂けると。管理の事を考えたときに、出来あがってから専門家を入れていくサークルがあるのかどうか、無ければ一体型でやっていくときには、早いうちから募集的なものを考えて、こう言う専門家がいないと、ここの管理者にはなれないと言うのを最初から訴え出して行かないと詰まってこないのかなと感じがしていますので、その辺の検討もお願いしたいと思います。

委員：A案、B案それぞれに意味はあると思いますけれども、私達が考えてきているのはB案の方が近いだろうなと思います。子育て支援もお母さん達が多目的ホールで少し体を動かして遊べるようになったときには、管理が別の場合にはとてもやりにくくなると思います。B案であれば何処かに全体を一括管理している所があって、時間、スペースの振り分けとかされている方が利用者も計画を立てやすいのかなと。それから、管理する方も全体が見えている。そういう点ではB案の方がいいのかなと。ただし共有スペースがフロアの全体を包んでいるイメージですが、共有しなくても大丈夫という独立するというのはあるかもしれない。町が委託していく方向性を考えても管理を一本化というのが基本的に必要。

委員：どちらも一長一短ありますので図書館の開館時間、閉館時間と公民館の開館時間、閉館時間が今は合わない。図書館の機能や専門性や利用者の事を考えたときに、それをどのようにすれば良いのか。いらっしゃる方達にとっては、朝から晩まで遅くまで公民館が閉まる21時まで開いていたら良いのかなと思いますが、その間専門職員の方、司書を複数で置いておかなければならないことになりますのでどうでしょうか。

委員長：今日は第一次の議論ということで、運営の姿が見えてくれば良いと思いますが。

委員：幼い子供達と一緒に高齢者が会って話したり、交流したりする事は良い事だと思います。ただ、13の文化部がありますので、これからどういう風を持って行って、誰が管理して、誰が受付をして等、大変だと思う。一体的な、ことぶき大学も管理事務所が図書館もみんなあって受け付けてくれるのはいいのではないかと考えてしまいます。

委員長：今日は課題を土台に頂ければいいと思います。

委員：先程、図書館は子供達や中学生くらいまでが多いとあったのですが、お年寄りの方も日中、沢山いらしてます。小さい子もお母さんとか、おじいちゃん、おばあちゃんとかといらっしゃいますが、団体利用の学校・幼稚園が来ていると、お年寄りの方がいらして、微笑ましく見守ってくれたり、知り合いの子がいると「〇〇さん家の孫だ」など声を掛けたりしてくれています。基本的に公民館は日中も夜もやっていますが、夜に子供はあまり行かないと思う。お年寄りの方も一生懸命活動されている方がいますが、日中時間がある方が参加してくれています。世代間交流をするなら日中かなと思います。

委員長：曜日や時間帯によっても違いがあるかと思います。

委員：利用する時間帯から言えば、子育て支援もそうですが保育の営みが必要な方々は入園しているので、在宅で子育てしている方々が利用する場所とすると明るい時間だけと言う事になると思う。図書館でも、中高生が勉強で使うのは夕方から夜なので、その時間は本を借りるとかでは無く・テーブルスペースが開かれていれば良いのかなと。なので、図書館の方々が配慮しなければならない時間というのは例えば 18 時までとか勉強したい人のスペースは 21 時まで使えますと言うふうに人の配置と利用の時間を上手く組み合わせれば良いのかなと思います。

委員：動と静という面で、静かな環境が必要な方と、カラオケとか賑やかな所がある一体化の場合どんな形があるのか、考えていくことが課題だと感じます。収納スペースの課題で、例えば囲碁や将棋の物を保存する場所などの収納スペースなども必要な物は設計の段階で考えていかなければいけないのかなと思います。

委員長：あるスペースを多目的に使うのは先程スライドにもありましたが、多面性を持たせるなら間仕切り、座席と言うのもありますが、和室が多目的に使えるのは押し入れがあるから。やはり収納が必要。

委員：敷地は東西に長く南北に狭い。そういった敷地的な条件、総額 16 億円の予算の中で行う床面積といったものに影響してくるのでは。一体型、分離型は一長一短だと思いますが、敷地の形状とか建ぺい率とか予算を含めた上で、そろそろ考えていかななくてはならないのでは。その辺を説明して頂きたい。

委員長：(4) で説明となります。

委員：長年、公民館に携わってきて色々な施設を見てきております。新しく出来るものには一体型が向くと思います。昨日も相馬の方に行って参りまして、博物館と図書館の方を見てくる機会があったのですが、一体型でした。お年寄りの方も子供達も一日居られる環境になっていました。一体型にしなければいけない所は一体型にして、分離型にしなければならない所は分離型にするという両方の折衷案も必要ではないかと思います。例えば図書館、歌を歌う所は遮音性があるようにする。表郷中央公民館は各部屋を間仕切りされる。会津の複合施設は1階がフロアの事務室、エスカレーターで2・3階にあがれ最上階が図書館になっている。カルチャー的なダンス等は完全個室になって表から中が見えるようになっている。折衷案でやるのも案としてあるかと思います。

委員長：折衷というよりは総合的に。各委員の発言を受け止めた絵が次回以降だんだん出てくると思います。利用者の立場、管理者の立場がありますが利用者が利用しやすくなる為には管理者の負担がないようにしておくことが利用者にも使いやすい。利用をとるか管理をとるかと言う話でもないので、上手く折衷し運営していく。その時に利用者の特性やニーズを受け止めて組み立てていくかと言うのが、矢吹町ならでは、あるいはこの施設規模ならではの組み合わせならではの答えになってくるのではと思う。誰が担うか、町の職員、指定管理、ボランティア等、地域の人々が主体的にというのをどう言う風に組み合わせていくかこれから課題になると思う。単なる器づくりではないということで、今日色々意見を頂きたいので、今後検討していく。

#### (4) (仮称) 矢吹町複合施設配置計画 (素案) について

委員：現在の中央公民館と図書館の大きさはどの程度か。

事務局：中央公民館が 1,200 m<sup>2</sup>、図書館が 600 m<sup>2</sup>合わせて約 2,000 m<sup>2</sup>。複合施設は 1,000 m<sup>2</sup>程大きくなっている。(模型により説明)

委員：屋台も良いですが、まつりは2年に1回で1日ですよ。どちらを優先するか。他の施設はオールシーズン使うので、2年に1回の1日の為に配置を変えるのはどうか。動線、奥州街道の近所の方の比率と車を利用する人の比率と歩いて来られる人の比率等を考えた場合に駐車場からどう動線を作った方が良いのかも検討した方が良いと思う。屋台を中心に考えるのは危険かと思う。結果的にそうなるかもしれませんが。屋台を中心に考えるよりは日常的に使う利用者の動線を優先した方が良いと思います。

委員：学校では、教室がオープンスペースの教室が流行った時期がありました。現在はどちらが主流かわかりませんがオープンスペースの良さもありますが、使ってみると壁がないと落ち着かないという事でこの辺の教室は壁のあるものが多いのかと思います。一体型、分離型ですが、図書館の機能、中央公民館の機能を一体化という事で注意しなければならないのは遮音が課題かと思う。

委員長：屋台蔵を切り口にした資料になっていますが、屋台蔵も1つの題材要素として、トータルに町民の皆さんの活動の場を作っていくという事で。屋台が先か何が先かという議論の仕方ではなく、矢吹の人達にとって良い場を作るということでこれから進めていきたいと思っています。

委員：見た目、もあるし使い勝手の良さもあると思う。どれが使い勝手が良いか。駐車場から近い建物の配置はどれか。屋台を道路に出す際の良さはどこの位置が良いのか。それを考えるとA案以外にない。屋台を後ろから持っていくときの出し入れの不便さを想像すると今から冷や汗が出ます。1回、回すだけでも大変。これが2回、3回となると考えられない。

委員：これは総合的に考えてA案と言うのもあるだろうし。個人的にB案は賛成しない。

委員：駐車場が西側なのでそちらからの動線だけでは無いと思う。例えばA案は屋外空間、屋台を回す準備する空間が日常はどうなっているのか。日常は駐車スペースに使えたりとか、その時その時でシフトする事も有りだと思う。そういう柔らかい考えの方が良いと思います。

委員長：こう言った議論をこれからしていきます。物が出来ていく、生まれていくので楽しく議論していきたい。一方で予算的な事も見つめていきたいと思う。事業費は16億と頭に入れて、現状の建設状況、建物だけでは無くどういう設備内容を入れ込むか、総合的にお金を考えながら。面積を少しでも減らせれば、それだけ楽になる。一方で要求は面積に現れてきますので具体的に活動の仕方をイメージしながら議論を重ねていけるように事務局から資料の用意の仕方について工夫をして次回以降検討が進められるようにして頂きたいと思っています。

閉会